

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	クリエイティブサポート くじら(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	R7年11月20日		～ R7年 12月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	R7年12月 1日		～ R7年 12月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日課活動や、運動サーキット、遊びを通して、コミュニケーションスキルや日常生活動作、基礎体力、感覚機能などの獲得を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動サーキットを通じて体を動かすことで基礎体力や感覚機能の向上を図っている。</li> <li>日課活動では、挨拶や表出の方法、感情のコントロールなどを日課として行うことで獲得を図れるような支援をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関と連携を図り本児のアセスメントを提供してもらい、ストレッチや課題の確認をして運動の幅を広げていく。</li> <li>集団生活での対応力が図れるようにスキルトレーニングを行っていく。</li> </ul>
2	こどもの特性を理解し、一人一人に合わせた個別支援計画を作成している。	こどもの将来を見据えて、長期的な目標と、短期的な目標を明確にし、具体的な支援内容を個別支援計画に記載している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の関係機関や専門的機関とアセスメント情報を共有し、個々の課題に対して専門的な支援を行っていく。</li> <li>評価については、多角的な評価ができる仕組みを作っていく。</li> </ul>
3	保護者から相談があった際には迅速な対応をしている。(家族支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の相談を定期的に受ける機会を作っている。</li> <li>相談があった場合には迅速に対応できるように職員の体制を整えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門的な視点からの相談を実施していく。</li> <li>意向に沿った支援をチームで検討していく。</li> <li>きょうだい児の相談も定期的に行っていく。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレント・トレーニングやご家族に対する研修の機会が少ない。	ご家族への研修の機会が保護者会で実施している。保護者会でのみの研修実施になっているため、全保護者へご案内が行き届いてなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>早めに保護者へ案内をする。</li> <li>保護者が受けたい研修を事前にアンケートを行い、結果を元に研修を行うようにしていく。</li> </ul>
2	地域との交流が少ない。	法人内で児童発達支援や他事業所の利用者と交流を図る機会は作っている。園との交流や地域のイベントへ参加する機会は少なかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の保育施設や、児童館などの資源を活用し同年代の子どもと触れ合う機会を設ける。</li> <li>園と交流する機会を年間計画に入れ込み、早めに保護者へ案内する。</li> </ul>
3	非常災害時の訓練や研修の報告がご家族に行き届いていないことがある。	避難訓練は年に2回以上は実施している。月間予定表や、月だよりにて実施報告をしているが、周知不足であったことが要因と思われる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご家族への報告の方法を見直し、年に数回実施する保護者会でも実施報告として行なっていく。</li> <li>避難訓練の案内文を配布して周知していく。</li> </ul>